

日



魚介の消費課題解説

愛南でセミナー 水産業展望探る
宇和海の水産業活性化について考える公開セミナーが15日、愛南町御荘平城の御荘文化

水産物の消費や流通の現状について語る水産大学の三木教授

センターであった。水産大学校(山口県)の三木奈都子教授(水産経済学)が水産物の消費や流通の現状と課題について解説した。

セミナーは2012年度から実施する文部科学省補助事業「地域イノベーション戦略支援プログラム」の一環で、愛媛大南予水産研究センターなどが開催し3回目。南予地域の水産関係者約50人が参加した。

三木教授は魚介類の消費量は08年に肉類に

逆転され減少傾向だが「消費者が魚嫌いになっただけでなく、価格面での選択も要因の一つ」と指摘。また、大手スーパーが全国展開する中で、メジャーな魚ばかり販売され「雑魚を食べる機会が少なくなった」との分析を紹介した。

地域の中小小売店では「地場の魚介類を取り扱うことで大手との差別化を図る動きが徐々に出てきている」とし、魚を評価してくれる仲卸業者や店舗と漁業者が関係を強めることが、将来への希望につながると訴えた。

(清家康尊)